

わが家の朝は少しも慌ただしさはない。と思うのは私だけかと・・・かみさんの朝は忙しい下の部屋の雨戸を開け、食事の支度これが大変、基本的にはパン食である。前の晩にセットし朝香ばしく出来上がる。(パン焼き器、家ではこれをパン屋さんと呼んでいる)作ったパンは厚切りがみそ、トースターで表面をカリカリにして、中はもちもちこれがうまい。野菜ジュースに豆乳コーヒー、輪切りバナナの入ったヨーグルト、小玉トマトとレタス少々これがわが家の朝食の定番だ。もっとも、晩に煮込みうどんのときは朝食はおじやになることが多い。朝食をどんぶりで食べる量は腹に重たい。

食後が問題、問題と言うほどのことはないのだが、楽をしていては健康を害するというこ
とで食後の皿洗いは私の仕事になっている。問題は左手がいかに協力的かどうかということ。豆乳コーヒーを入れたマグカップこの形状が問題だ。5、6個は割っている。この間も左手から滑り落ちて欠けた。マグカップは廃止にしたい。

食後は直ちに入れ歯の手入れが必要食べ物が詰まるからヨウジなどではだめ、取り出して洗わなければならない、一度、孫娘にからかい半分に見せてやったことがある。脱着可能な歯、いやびっくりして目をまるくしたっけ。このくらいでびっくりするなんざ人生経験未熟だ。幼稚園じゃそんなもんか。

朝食 19/3/2 Hidekuro

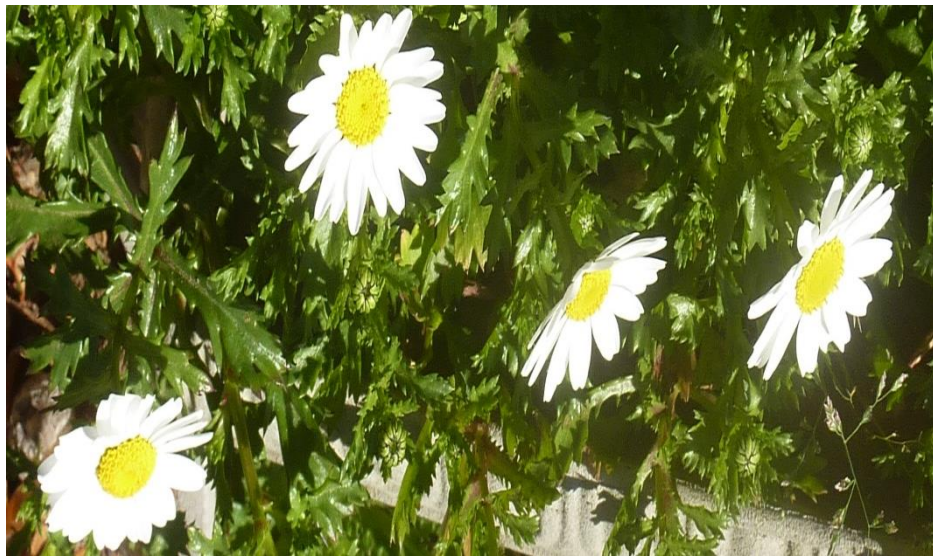


朝、起きようかそれとももう少し寝ようかと迷う時分部屋の中はこれまでと違って明るくなっている。チョット前なら部屋の電気をつけなければチャックができなかった。清少納言は枕草子で「春はあけぼのやうやう白くなりゆく山際少し明かりて紫だちたる雲の細くたなびきたる」こんな具合に春夏秋冬をうたっている。四季の美をこんなに捉えるなどすごい。

季節は正に春に向かっている。これからは桜が咲き、鶯がなきホトトギス（不如帰）が鳴き春本番となる。春が待ちどうしいなどというのは年寄りの言うことと思っているが、春は待ちどうしい。すると「あなたも押しも押されもしない立派な年寄りです」と言われた、確かに若いつもりでいるわけではないが歳をとった。誰のせいでもない。

身体が不自由になると外に出ていくのがおっくうになり、自分の世界が狭くなる。その狭い世界というのが裏庭だけだ。牡丹は春が来たら真っ先に花を咲かすぞといっている。隣のユスラウメの木は年々大きく手を広げ小枝にびっしり蕾を付け準備は怠りなし。ノースポールが咲いて、菜園の緑、そして雑草がはびこる、定点観察だけど十分楽しめる。

春はあけぼの 19/3/8 Hidekuro



裏庭のノースポール